

エコライフ・フェア 2008 開催の基本的な方針

エコライフ・フェア 2008 実行委員会

1. エコライフ・フェアとは

エコライフ・フェアは、毎年6月の環境月間に全国各地で展開する様々な行事の中の主たる行事の一つとして1990年以来、環境省（環境庁）、関係地方公共団体、関連法人、業界団体、企業及びNGOが連携し実施してきました。ここ数年は、環境の日（6月5日）前後の土曜日、日曜日の2日間、東京・渋谷の代々木公園ケヤキ並木・イベント広場を会場に開催しています。

2008年は京都議定書第1約束期間の始まりの年であり、また7月に北海道洞爺湖サミットが開催されるという国内外の環境保全の取組にとって重要な年であることを踏まえ、各主体が協力して、人々を理解・意識の段階から実際の行動へと導くきっかけとなる場を提供し、我々の生活様式及び経済社会活動を環境にやさしいものとすることをめざして実施します。

2. エコライフ・フェア2008の開催に当たって

○基本コンセプト

一定の関心ないし潜在的な関心がある家族や友人グループ、個人が、科学的な体験や体感することなどを通じて、環境活動への関心を高め、行動をとるきっかけを提供するものとします。

その際、以下の事項を踏まえることとします。

- ・低炭素社会、循環型社会、自然共生社会づくりに焦点を当てるとともに、北海道洞爺湖サミットの1ヶ月前に開催されるイベントである点を重視する。
- ・環境省、企業、NGO、マスコミ、研究機関などが協力・連携して実施する。
- ・実施・運営に当たっては、環境への負荷をできる限り回避・低減する。

以上を踏まえて、参加者が創意工夫し、柔軟に参加できるフェアとします。

3. 開催概要

タイトル	エコライフ・フェア2008
開催期日	平成20年6月7日（土）、8日（日）
会場	代々木公園 ケヤキ並木（NHKホール前）／イベント広場
主催	エコライフ・フェア2008実行委員会 環境省、東京都、渋谷区、（独）環境再生保全機構、（財）経済広報セン

ター、(財)水と緑の惑星保全機構、(財)日本環境協会、(財)地球環境財団、(財)環境情報普及センター、(財)自然環境研究センター、3R活動推進フォーラム、日本廃棄物団体連合会、渋谷区商店会連合会、日本放送協会、共同通信社、全国地方新聞社連合会、NHKプロモーション

後援(予定) 文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、(社)日本新聞協会、(社)日本民間放送連盟、(株)エフエム東京

協力(予定) 東京都教育委員会、渋谷区教育委員会、日本百貨店協会、日本チェーンストア協会、日本生活協同組合連合会、東京都生活協同組合連合会、東京急行電鉄(株)、京王電鉄(株)、グリーン購入ネットワーク

運営事務局 (株)ジェイコム

予想入場者数 5万人

入場料 無料

4. 内容

(1) 会場の構成

企業・NGO等の出展と、主催者企画(出展及びステージ)から構成します。その際、フェアの基本コンセプトにあうような出展内容となるよう、各出展者に検討を依頼します。展示内容は、「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」づくりに焦点を当てるとともに、環境問題について身近な視点から理解でき、政策や一人一人がとるべき取組をわかりやすく解説するような企画、展示等を行います。実施・運営に当たっては、環境への負荷をできる限り回避・低減します。

また、北海道洞爺湖サミット開催に向けた取組につながるような企画を重視し、フェア全体で「持続可能な社会」への取組を総合的に展示します。

(2) 構想している出展内容

① 出展エリア

低炭素社会、循環型社会、自然共生社会づくりについて、最新の科学的知見や、国内での各主体による取組の推進、国際的な連携などを紹介します。

また、北海道洞爺湖サミットの1ヶ月前に開催されることを踏まえ、各主体が協力して、人々の生活様式や経済社会活動全体を環境にやさしいものとし、ひいては持続可能な社会作りへの取組につながるような企画を重視します。

② ステージ

一般の来場者にわかりやすくエコライフを伝えるために、著名人のトークショー

やコンサートなどを行い、より身近に環境問題を考えるきっかけづくりの場や、より関心のある層向けに、理解を深める内容で構成します。

③ 飲食物の販売エリア

ご家族づれの方々にも楽しんでいただけるよう、飲食物の販売コーナーを設けます。素材からエコロジーの意識を持ってもらうオーガニック系の素材を中心とした飲食の提供を行う予定です。また、洗浄カーを準備し、リユース食器、リユースカップを使用し、来場者が洗浄、返却するディッシュ・リユースのシステムの実践など、エコライフ・フェアの名にふさわしいものにします。